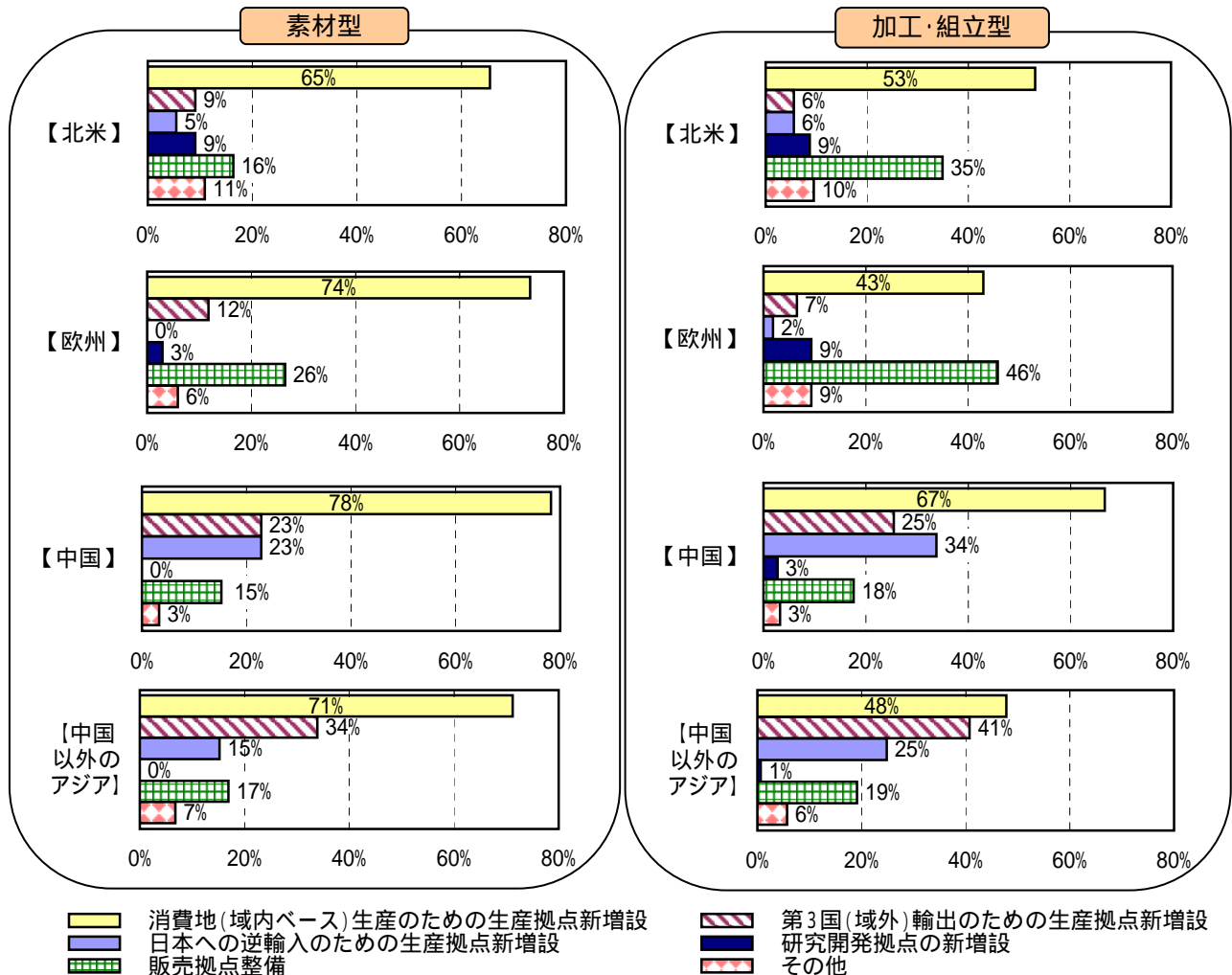




## 製造業における海外設備投資の目的

- ・日本政策投資銀行の「設備投資行動等に関する意識調査」によれば、製造業の海外設備投資の目的については、消費地生産を挙げる企業が全地域で最も多く、また、これ以外の投資目的としては、北米、欧州で販売拠点整備や研究開発拠点新增設を挙げる企業が多かったのに対して、アジアでは第3国輸出や日本への逆輸入のための生産拠点新增設を挙げる企業が多いという結果となった。特に、中国では逆輸入が第3国輸出より多く、中国が現地市場の取り込みと対日輸出拠点の双方にとって重要との位置づけとなっていることが確認された。
- ・製造業を素材型、加工・組立型に分けて相違点を見ると、全地域で素材型の方が「消費地生産のための生産拠点新增設」を選択した企業の割合が高く、また、アジアでの投資目的として逆輸入や第3国輸出を挙げた企業の割合は加工・組立型の方が高いといった点を指摘できる。
- ・こうした結果から、素材型では、先に海外進出した日系企業の現地調達ニーズを満たすための現地生産拠点建設が設備投資の中心になっているのに対して、加工・組立型では、需要地生産を基本としつつ、製品特性などに応じて第3国輸出や逆輸入を組み合わせ対応している企業も多いことが窺える。

図表1 海外設備投資の目的（素材型、加工・組立型の比較）



(備考) 1. 日本政策投資銀行「設備投資行動等に関する意識調査」(2004年11月調査)により作成。

2. 複数回答のため、各項目の合計は全体と一致しない。

3. 素材型：繊維、紙・パルプ、化学、窯業・土石、鉄鋼、非鉄金属

加工・組立型：食品、一般機械、電気機械、精密機械、輸送用機械、その他の製造業(出版印刷、ゴム、金属製品、その他製造業)

[調査部(産業調査担当) 増田 真男、鈴木 明子]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp